

第39回

# 日本伝統漆芸展

JAPAN TRADITIONAL *Urushi* Works EXHIBITION 2022



大谷 早人  
《監胎蒟醬箱「碧海」》

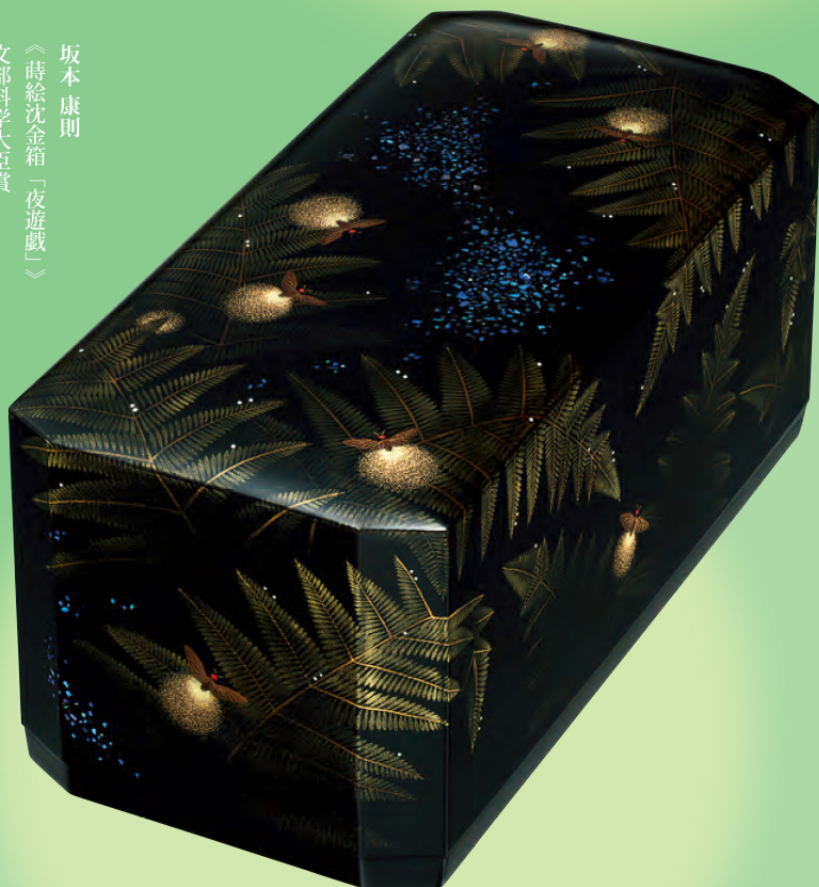
2022年

3月12日(土) — 3月27日(日)

会場：高松市美術館1階【常設展示室1】



山下 義人《銀河靴べら》



坂本 康則  
《蒔絵沈金箱「夜遊戯」》  
文部科学大臣賞

## 観覧料：

一般 200円(160円) 大学生 150円(120円)

※( )内は20名以上の団体料金 ※常設展示室2もご覧になれます

65歳以上、高校生以下、障害者手帳等所持者は無料

## 開館時間：

9:30 ~ 17:00 / 入室は閉館30分前

※ただし、3月12日(土)、18日(金)、19日(土)は19:00まで

## 休館日：

月曜日

※ただし、3月21日(月・祝)は開館、3月22日(火)は休館

主催 = 高松市美術館 公益社団法人日本工芸会

後援 = 文化庁 香川県 香川県教育委員会 朝日新聞社

公益財団法人岡田茂吉美術文化財団

四国新聞社 NHK高松放送局

KSB瀬戸内海放送 OHK岡山放送

RNC西日本放送 RSK山陽放送

TSCテレビせとうち



高松市美術館  
TAKAMATSU ART MUSEUM

# 第39回 日本伝統漆芸展

JAPAN TRADITIONAL Urushi Works EXHIBITION 2022

2022年

3月12日(土) — 3月27日(日)

常設展示室 1

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承と現代生活への応用を目指し、日本伝統工芸展の漆芸部会展として開かれています。第39回となる本展は、東京・輪島・高松・広島 の4会場を巡回し、受賞作8点を含む入選作品全83点を展示いたします。

重鎮から新進まで漆工芸への飽くなき挑戦がうかがわれる本展覧会は、後継者育成に大きな貢献を果たしています。各地の伝統が育んだ地域性をも展望することができるまたとない機会です。本展が見せる磨き抜かれた技と美への探求とともに、常設展示室2で開催されている高松市美術館のコレクションによる「讃岐彫の美」も併せて御鑑賞いただき、漆芸の魅力をお楽しみください。



真鍋 民生

奨励賞 高松市美術館賞

《乾漆盆「三栗」》



長内 洋三

東京都教育委員会賞

《乾漆鉢》



米本 有希

朝日新聞社賞

《蒔絵箱「遊彩」》



須藤 靖典

MOA 美術館賞

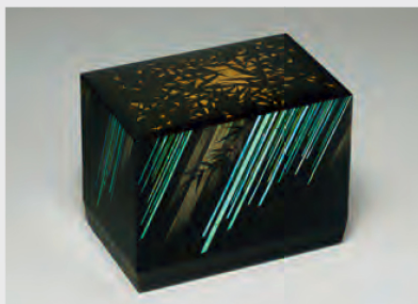
《乾漆蒔絵蓋物「天高く」》



中室 惣一郎

奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞

《蒔絵箱「衾雪」》



大角 裕二

奨励賞 熊本県伝統工芸館賞

《蒔絵箱「竹林」》



新井 寛生

日本伝統漆芸展新人賞

《乾漆蒔絵箱「雨落」》

## 第4期常設展 讃岐彫の美 Beauty of Sanuki Carving

同時開催／常設展示室 2

江戸時代末期に活躍した讃岐漆芸の祖・玉椿象谷(1806-1869)は素朴な木彫をはじめ、堆朱や堆黒(朱色や黒の漆を何層も塗り重ねてから文様を彫り出す手法)などの彫漆技法を考案し、それらは「讃岐彫(狹貫彫)」と呼ばれました。その後、明治40(1907)年頃に讃岐彫を中心にした漆器を製造・販売する「百花園」が開店し、石井馨堂(1877-1944)や高橋皖山(1883-1942)、佐々竹僊(1898-1932)ら名工たちが集い、讃岐彫の拠点となりました。なかでも馨堂と皖山は彫りの双壁と称されたというほど、高い技術で多くの作品を生み出しました。優れた彫りの技はさらに後の世代にも受け継がれ、馨堂の弟子の音丸耕堂(1898-1997)は1955年に「彫漆」の技法で重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝に認定されました。

本展では、象谷の作品から、馨堂や皖山の超絶技巧とも呼べる高い技術を駆使した作品を中心に、新しく開発された色漆を用いた耕堂の華やかな作品まで、精緻な彫りが生み出す美しさをご覧ください。

●内容・日程が変更になる場合があります。その際はHP等でお知らせします。●新型コロナウイルス感染症の感染防止対策へのご協力をお願いします。



### 【交通のご案内】

- ◎ JR 四国：高松駅下車、南へ徒歩約15分
- ◎ ことでん：瓦町駅、片原町駅下車、徒歩約10分
- ◎ バス路線：(ショッピング・レインボー循環バス) 紺屋町バス停下車、徒歩約2分  
(まちバス) 丸亀町参番街下車、徒歩約3分  
(高速バス) 県庁通り下車、徒歩約8分
- ◎ 駐車場：美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車約144台収容)